

RRR (鉄道総研レビュー) の紙面を改訂して半年が経過しましたが、いかがでしょうか。「鉄道技術 来し方行く末」「鉄道総研の技術遺産」などは、執筆者にベテラン・若手研究者を取り交ぜ、熱気を持って執筆に当たらせています。研究開発成果を紹介する特集記事とは違う切り口により、鉄道技術、その変遷を俯瞰できる読み物となるように、可能な限り写真、図を多用して読みやすくなるよう努めています。その他の連載記事は、特集記事には盛り込めなかった、学会活動や国際交流、成果の適用例などを出来る限りお伝えし、鉄道総研の研究開発活動全体を紹介する役割を持たせました。今後とも紙面のさらなる充実を図って参りたいと思います。業務や出向で皆様のところへ伺っております総研職員でも結構ですので、ご希望の話題やお気づきの点、また辛口のご意見もいただければ幸いです。なお、

2年間連載し、ご好評頂いたグラフィック記事である「最前線」については、反響も大きく、不定期に掲載することを計画中です。今しばらくお待ちください。

今月号の特集は、「新しい構造・工法」と題し、新しい構造、補強のための新たな技術、新材料の応用を中心にご紹介いたしました。インフラの経年劣化やレアメタルの不足など、社会的に関心を集める技術的な問題が増えてきましたが、これらをチャンスととらえ正面から向き合い、役に立つ鉄道技術を社会に提供することも鉄道総研の重要な役割と認識し、研究開発に励んでいます。

次号の特集は「気象災害」です。降雨、積雪、風などに対する研究成果を中心に報告いたします。ご期待ください。(K.U.)